

## 脳卒中の患者さんに奇跡を起こしたい 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 看護師長 吉田芳美

2013年に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得した吉田看護師長。認定看護師とは日本看護協会に特定分野において熟練した看護技術と知識を有することを認められた看護師です。脳卒中リハビリテーション看護の分野での認定看護師は南河内に2人しかいません。吉田看護師長に話を聞きました。



### より高度な看護を目指して

脳卒中は国内で年間約30万人が発症し、後遺症で寝たきりになる第1位の疾患です。ある日突然、脳卒中を発症し、重篤な障害が残ってしまうこともあります。その人たちを理解し、機能回復のための手助けをするためにはどうすればよいかを真剣に考えると、それまでの私の知識では壁を感じ、「もっと深く知りたい」と認定看護師になることを決心しました。

資格取得には、まず日本看護協会の試験を受けなければなりません。合格後、認定看護師教育機関で6ヵ月615時間以上、急性期の病態予測や重篤化回避のための知識と技術、そして機能回復支援のための早期から行うリハビリテーションの看護技術を修得し、認定審査を受けます。また、この資格は5年ごとに更新のため書類審査があります。

現在、認定看護師は救急看護や緩和ケア、乳癌看護など21分野において定められています。脳卒中リハビリテーション看護については2010年に認定が開始された新しい分野で、全国に約580名、南河内には私を含め2名しか

おりません。次に具体的な私の仕事をお話します。

### 急性期から回復期のアプローチが重要

認定看護師の役割は水準の高い看護を実践すると同時に、看護職に対する指導も重要な使命になります。私がスタッフに常に言い続けているのは「あきらめない」ということです。患者さんのこのからの未来を作るのは私たちだと言う心構えで看護にあたります。

患者さんの脳の画像を見て、医師は、「ここまでしか回復できないだろう」と予測しても、私たちはそれ以上の状態までに回復させたい気持ちと、「奇跡は必ず起こる」と考えます。そのために急性期を脱しても意識の戻らない患者さんのベッドサイドで手や顔をマッサージで刺激する、数分でもベッド上で座位にするなど、車いすに乗せるなど様々なアプローチを行います。

以前、70代の意識が戻らない男性がおられました。自力での呼吸ができず気管切開ができていました。毎日奥様が病室に來られ、一緒に体をさすり、話しかけ、好物だった食べ物や、趣味だった家庭菜園で穫れた野菜を

手のひらに乗せたりして開き、さらに1ヵ月すると少しずつですが自分で食事ができるようになりました。奇跡は起こると確信しました。

### 予防、再発防止のために発信も

一番、幸せなことは脳卒中にならないことです。そのためには生活習慣病にならないこと。リスクが高いのは糖尿病、高血圧、喫煙です。塩分・脂肪の摂り過ぎやお酒は飲み過ぎなければ大丈夫、普段から軽い運動を心がけ、急に暖かい所から寒い場所に移動するのはNG。これからの季節、お風呂に入る時は浴室を温めてから入ってください。意外と知られていないのがカフェインで、取り過ぎはよくありません。

軽度な発症なら、再発させないことが大切です。「次に発症したら、大変なことになりますよ」と患者さんに繰り返し言いますが、みなさん、喉元過ぎれば…ですね。

こんな予防のお話や、「あれ？おかしい」と感じる初期症状について、12月24日14時から市民公開講座を当院1階ロビーで開催します。ぜひお越しください。